

第18回海田町総合教育会議（令和7年度第3回）

議事録（要旨）

1. 招集年月日 令和7年11月20日（木）

2. 招集の場所 海田町役場 3階大会議室

3. 開会（開議）令和7年11月20日（木）13時00分宣告

4. 出席者

町長 竹野内 啓佑 教育長 森山 真文

委員 米丸 禎宏 委員 大野 恵美子 委員 竹岡 美佳

5. 事務局の職氏名

副町長 夏目 啓一 企画部長 脇本 健二郎

教育次長 新藤 正敏 企画部次長兼かいたブランド課長 吉本 真人

学校教育課長 立田 春美 生涯学習課長 下野 武士

文教施設整備室長 重西 康平 学校教育課教育指導監 高木 和希

学校教育課主幹 結城 和夏 学校教育課主幹 安田 昂祐

かいたブランド課主事 小田井 歩

6. 本日の議事日程

議題1 海田町教育大綱案について

7. 議事の内容

13:00 開始

○司会 かいたブランド課長（吉本）

それでは、定刻となりましたので、令和7年度第3回目の海田町総合教育会議を始めさせていただきます。まず、開会に当たりまして、竹野内町長から御挨拶申し上げます。

○町長（竹野内）

皆様お疲れ様でございます。御多用の中、委員の皆様には御出席いただきましてありがとうございます。今年度は、次期教育大綱の策定に向けて、全3回の会議を予定していたところでございます。これまで、7月、9月と2回実施させていただき、教育大綱の案について、皆様方と積極的に活発な意見交換をさせていただいたところでございます。それを踏まえまして、教育大綱の案を作成させていただきましたので、皆様方とさらに深堀させていただけたらと思います。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○司会 かいたブランド課長（吉本）

これより議事に移ります。ここからの進行については町長にお願いいたします。

○町長（竹野内）

それでは、まずは、議題について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 学校教育課長（立田）

それでは、事務局から教育大綱案について説明いたします。

別紙4資料1が大綱策定にかかる概要をお示ししたスライド資料でございます。別紙5資料2が大綱案本体でございます。本日は、両方の資料を御覧いただきながら説明をさせていただきます。

まず、別紙4資料1の5頁を御覧ください。

前回、9月の第2回総合教育会議で出た御意見をお受けいたしまして、対応案を示しております。一つ目、基本理念に基づくコンセプト(基本的な考え方・方向性)があって、これに紐づく施策の展開といった構成のほうが分かりよい。という御意見。二つ目、基本理念は現状のままでよいが、本文の中で、成長実感の先にあるものまで言及できればよいのではないか、という御意見をいただきました。これについて、対応案といたしまして、一つ目に関しましては、「3 大綱の構成」にコンセプトと基本理念を明記し、「4 施策の展開」に繋がるようにいたしました。また、二つ目に関しましては、「3 大綱の構成」の文章中に、町民が成長を実感しその先に目指すものについて加筆いたしました。実際に本体を見ていただきますと、3頁の2段落目を御覧ください。「また、生涯を通じて学び続けることで、成長を実感し、生きがいや人生の意義、持続的な幸福感を得るなど、町民のウェルビーイング(個々の幸せや生きがい)を実現するため、以下の教育施策をもとに構成することとします。」と文章で書かせていただいております。その下に、基本理念「町民一人一人が学び続け成長を実感できる教育の実現」といたしまして、コンセプトとして、3つ挙げております。それでは、スライド資料にお戻りください。5頁を御覧ください。

「子供」という表記について、「海田っ子」と表現できる箇所は必要に応じて置換すること。庁内ルールで原則「こども」としていることに留意すること。」

という御意見をお受けしまして、「海田っ子」と表現できる箇所は改め、原則

「こども」の表記で統一をさせていただきました。「施策の展開中、(3)「(前略)連携による取組」→「連携」、(4)「(前略)支援の取組」→「支援」と整理するほうが分かりよい。」という御意見をお受けしまして、「(3)「(前略)連携による取組」→「連携」、(4)「(前略)支援の取組」→「支援」と修正をいたしました。また、他の箇所についても必要に応じて修正を行ったところでございます。

大綱案本体の4ページを御覧ください。

先日、このことについて、議長、副議長へ説明を行いました。こども議会という取組を評価いただいた一方で、主権者教育が大切なので、その言葉を使ってはどうか、という御指摘をいただきましたので、主権者教育という言葉を入れさせていただいております。

教育大綱案について、本日御協議いただいて、こちらでよろしければ、11月26日（水）の議会全員協議会にて議会に説明をさせていただき、策定という流れになります。説明は以上でございます。

○町長（竹野内）

はい、説明は以上でございますが、議員の皆様方から何か御意見等ございましたら、よろしく願います。少し補足をいたしますと、この教育大綱の本質的な部分ではないのですが、フォントとか色合いを前回から変更しており

ます。今、まさに策定検討中の総合計画後期基本計画という海田町の最上位計画と整合を図ろうということで、基本的にゴシックと明朝で構成されていたものを、読みよさも意識をしながら、統一を図っています。いろいろ海田町は計画があるのですが、一つ軸を通してやっていきたいという思いがありまして、細かい部分ではあるのですが、取り組ませていただいております。

○教育委員（大野）

コンセプトのところ、「だれでも、どこでも、いつからでも学び続けることができること」というのはとても良いと思います。ここの部分を大切に、柱にして、いろんな施策を考えていかれたら良いなと思いました。それと、大綱の図の中に、「小中一貫・幼保小連携の強化」と記載がありますが、いろいろな保護者の皆様や子ども達と、地域や学校で関わっていると、それぞれの学びが、ステージが違った保護者の皆様との出会いが子ども達を育てているわけですね。だから、その育ちのステージの違いによって、子ども達が、いろんな環境の中で学習している、生きている、生き方を学んでいるわけですね。その意味でも、この連携を強化していくというのはとても良いことだと思うので、その内容を今度は検討していくというのを大切にしていきたいと考えました。

○町長（竹野内）

こちらの意見に関して、事務局からは何かございますか。大野委員がおっしゃったのは、コンセプトはすごく良いのだけど、それが、計画倒れにならない

ように、実効性のある取組をしてください、という御指摘だと思いますが、どうでしょうか。

○事務局 学校教育課長（立田）

はい、誰でも学びなおしができる、ということをもっと学校教育、社会教育を通じて、町民の皆さんに知っていただいて、それができるように、学校教育ではどういうことをしていこうか、社会教育ではどういうことをしていこうか、ということこれから連携していきたいということで、教育大綱の図を作成しております。実際に、社会教育の中でされているいろんな取組を、学校教育の中にどうやって繋げていけばいいかな、というところを模索しながら、令和8年度が始まるまでに、少しずつ考えて前に進めていきたいと考えております。具体的な話はこれからで申し訳ありませんが、このように考えております。

○教育長（森山）

はい、小中一貫・幼保小連携の強化というと、どうしても先生同士の連携であったり、こども達が学校に行って体験するという、学校と保育所、幼稚園の枠組みの中で、どうしても考えがちです、強化するとは、回数を増やす、質を高めていく、という風に繋がりがちなんですけれども、先ほどもあったように、生涯学習、社会教育といかに繋げていくか、というところで、主体となるこどもの活動は学校でしているんですけれども、家庭に帰ったら、地域の公園で遊んだり、それから土曜日、日曜日の、例えば、講座とかその習い事にこども

達が行くということで、こども達自体は、枠が変わるだけで、人は変わってないってということだと思っんです。だから、その部分を社会教育なら、社会教育の中で何を学ぶかっていうこと、それがまた学んだものが、学校の教育の中で生かされたりとかっていうところがあるんだと思っんです。だから、学校としてはその縦に勉強していったりとか、繋がったりすることと、あと地域学習とか、地域に出てって何か習うことっていうことをコンセプトに出て行くこともそうですし、こども達が経験したことを、学校の中に持ち込むっていうところも含めて、この矢印が目指してるものですよね。それが繋がると、学び続けるということに繋がっていくんだらうと、今度は教えてもらった人が教える側に立ったりとか、そういう世代を超えたものになっていったり。細かいところかもしれませんが、そういう繋がりが、今、現状である例えば不登校であったりとか、家庭の中の虐待であったりだとか、そういう福祉的なものとか、個人的な課題の解決にも繋がっていくのだと思っんです。人の目が広がって、経験することが増えていけば、当然自分にも自信がつくし自己肯定感も高まるし、地域の日も広がっていくってところが、この中で、全てではないかもしれませんが、補えたらいいなっていう思いをもとに、今回コンセプトと基本理念を作っております。ちょっと広いんですけど、そこを繋げていく作業を、教育委員会の中でやっていかないといけないなっていうのを今回改めて整理させていただいて、自覚をした次第です。日々のいろんな課題に対しての大枠の部分ですね。やっぱりこの中で語られていかないといけない、と思っ

います。やっぱり、個別具体を、これまでは教育大綱の中で述べてたんですけど、やっぱり基本理念とコンセプトにまとめて、そこを柱に動いていくっていう整理をこの度できたので、非常に改定としては、大きな意味合いがあったのかなと思っています。

○町長（竹野内）

僕は建築技術者なんですけれども、やっぱり良い建物というのは、良い設計、計画がないとできないもので、どんなに技術を持っていても、計画が良くないと、良いものを建てられない、評価されないというところがあるので、コンセプトをしっかりと明確にしたうえで、実効性のある取組をどう展開していくか、ということが課題かなと思います。

教育長の御意見を聞いていまして、学校だけでなく、いろんな場所に、子ども達の居場所を作ることが、子ども達のセーフティネットとしての位置づけ、意味合いが出てくるのかなと、それに追加して、子どもの可能性を広げていくということが、いろんな体験機会を通して身に着けていく、それが「海田っ子」の将来にも繋がっていくんだ、というところが、しっかり意図されたものとして、こういう体制というか、構造ができたというのは非常に意味があるんじゃないかと思います。あとは、いかに仕組み化というか、接続回路を作っていくか、というところを今からやっていかないといけないと思います。

○教育長（森山）

小さいころの地域のいろんな実体験、良い経験、良い関わりがここに戻って

くる、きっかけになったり、地域に対しての誇りに繋がったり、ですね。やっぱり、小さいころから海田の中で育って、海田で良い経験をさせるというのが一番大事なのかなと思いますね。そこを大事にしていくような大綱にしていきたい。

○町長（竹野内）

総合計画でも1つ新しい視点として、思い出づくり、風景づくりをコンセプトに位置付けています。そういう、この地域で育ったというものが、自分の血となり、肉となり、将来、一旦、東京とか大都会に羽ばたいて出ていったとしても、こっちに帰ってきて、ふるさとのために、何かやってみよう、という気持ちが芽生えるかどうかは、原風景みたいなものがね、自分の中にどれだけあるかっていう、ところかなと私自身は思っています。こどものころから、そういう深い経験、体験をさせてあげるか、というところが、大きなテーマなのかなと思っています。

○教育委員（竹岡）

さきほどの風景づくり、思い出づくり、都市部に行ったとしても戻ってきて、ライフステージが変わっても、海田町で住んで、自分自身が生きていくときに、どんなふうに生きていきたいか、成長していきたいか、といったときに、この教育大綱というのが、一つの指針になるのかなとあらためて思いました。基本理念を見ても、町民全体を見ている感じ、教育大綱の図を見ても、支えあうような形になっている図を見ても、この中に自分たちがいて、自分たちの成長だ

とか生活だとか、支えてもらえる感じがあるなっていうふうに、感じられるのが、やっぱり今回の教育大綱の、一番変わったところ、いいところなのかな、と、はっきりわかるように、示されたのかなと思います。こどもの成長のところは、一番目に付きやすいのですが、こどもの成長を支えるところには、親の成長だったり、地域の成長だったり、こどもを育てるところに関わっていない人たちの成長に関わってくる。そういうところの支援というのが、もっと明確に出るようになってるのが良いのではないかなと思います。家庭教育だとか、家庭学習の支援だとか、社会教育だとか、家庭だけで孤立しないような形で、地域で生活できる。孤独な作業、こどもがいたとしても、いないとしても、家で孤独な生活をするのではなくて、地域や家庭、福祉や教育、それが支えてくれながら生活できる、何か困ったことがあれば、支えてくれて、何か自分自身が成長していけるというところが見えるような形で示していけて、実際に施策ができていくと良いのではないかと思います。

○町長（竹野内）

このことについて、事務局からはございますか。

○事務局 学校教育課長（立田）

学校も地域や家庭から支えてもらっている、それから、家庭も学校や地域が支えている、そのような三者で支えあっているという教育大綱の図をアピールしていかないといけないなと作りながら思っていたところです。ありがとうございます。

○教育委員（大野）

今の、竹岡委員さんの意見と同じなんですけれども、民生委員をしていますが、やはり、学校教育課だけではなく、様々な課と関わっていくんですね、その関わりの中で、全部繋がっているんだな、と思うことがあるんです。0歳～100歳、それ以上もあると思うんですけれども、本当にどの部署も大切で、その繋がりが、見える化されるようになると理想的だなと思いました。

○事務局 生涯学習課長（下野）

社会教育の面については、行政だけでなく、地域の方と連携をとりながら、海田町では、文化・スポーツにおきましては、文化スポーツ協会との連携でありますとか、各体育協会やスポーツ少年団、また、海田町青少年育成町民会議というものがございますので、そういったところと連携を密にしながらですね、地域全体で、日々、各種学び続けれる環境を、今現在も、やっているのですが、さらに強化して、町民1人1人が、ライフステージに応じて、学び続けれるような、成長を実感できるような、施策を展開していきたいと考えております。

○町長（竹野内）

根は繋がっているよね、ということなんだと思います。教育というのは、子どもに教えるものだ、という意味合いが一般的には強いと思うんですが、やっぱり、教えながら、親、大人も育つ部分というか、教え教われ、ということで互いにそういう関係の中で育っていくというのが大事かなと思います。

さきほど、竹岡委員がおっしゃったように、ある意味、地域、大人、そういう方が学び続けるということが、すなわち、子ども達のためにもなるよね、というところで、全体的な底上げをしていくことが、よりよい地域に繋がっていくのだと思います。世代間で教育が分断されるようなイメージを持ちがちなんですが、そうではないというところで、誰もが、というところは、学び続けることで、よりよい地域社会になっていくというところの、ビジョンみたいなものも、共有できればよりよい地域、まちになってくるのではないかと思います。なので、せっかくこういう良いものを作って終わりではなくて、みなさんにわかるように伝えながら、どういう風な施策を展開していくかということ、みなさんに理解してもらえるように、今まで教育に関心がなかった層を含めて、リーチさせていくかというところが、今からの大きな課題ではないかなと思います。

○教育委員（米丸）

先ほど町長がおっしゃったように、教育って、学校教育だけが目が行きがちなんですけれども、教育大綱の図をみると、どのステージにおいても、ふるさととしての海田を振り返るときに、学校だけでなく、社会教育も家庭教育も全部海田町でやってくれてるな、というのが見えてくるので、この図は視覚的にすごく見えてくるなと思います。ただ、計画しただけでなく、どう形にしているか、というのが大事だと思います。

また、教育大綱案において、「海田っ子」という表記が一部残っているが、

そこはどのように考えていけばよろしいでしょうか。

○事務局 学校教育課長（立田）

はい、基本的に、「こども」という表記をしていたんですけれども、「海田っ子」と置き換えても差し支えないものは、「海田っ子」に修正をしております。どうしても、例えば、先に出てしまっているものの引用ですとか、そういったものは「こども」又は「子供」になっております。

○教育長（森山）

細かい表記のことをいえば、文部科学省は漢字の「子供」となっております。あと、以前に作った、海田町立学校のコンセプト、建物のコンセプトは、そちらに沿って先に作っているので、漢字の「子供」を使用しています。今後、取り組みたいもので、「海田っ子」ということによって、愛着が伺えたり、海田町のこども達限定というところには、「海田っ子」という言葉を添えています。一般的に使用する「こども」と、限定的に使っている「海田っ子」で、少し区別をさせてもらっています。そのあたりは、特徴として捉えていただけたらと思います。「海田っ子」とあえて使うことで、限定的に、個別的に使いたいという思いがあります。あとは、この図をどうやって見える化していくのかが非常に大事だと思います。例えば、織田幹雄スクエアで千葉家の一般公開だとか、昔の暮らし体験だとか、そこに合わせて、福祉の関係で、社会福祉協議会がお祭りをしたり、体験活動とか、そこにシルバー人材センターの方が来て、物を売ったりだとか、ああいう催しがあるのですが、そこは、社会教育とか福祉の

部分の、歴史とか文化の継承だったり、生涯学習の環境の部分の、ソフト的な提供だと思うんですね。それを、チラシだとか、子ども達に対して、学校教育の中で、広報を啓発しているんです。全員ではないんですけど、参加したり、親と来たりすることがあると思うんです。それを学校教育の捉えとしては、ゆたかな心と体の育成だったり、火起こし体験とか、ごはんをつくる体験だとか、お釜でやったり、そういうものが、体験を通して、学校教育の中で、こういう経験をしたことがあるよ、というものに返って来たり、家庭教育とか家庭学習の支援になると、そこに子ども達をとおして、保護者が一緒に参加することで、一緒に親も体験したり、感じたり、こどもの笑っている姿や喜んだりする姿をみて、自分の子育て観を振り返ったりだとか、そういうことにもなっていくので、こういう図が、週末のイベント一つとったときに、どれとリンクしてて、どのように繋がっていくか、具体的に見ていけば良いのではないかと思います。昔の暮らし体験が、たとえば、学校の中で、作文活動に繋がって、それを書いたものが新聞に載るとか、ああいうものも全部学校教育の中で活かされる体験から得たもの、それが学習とか学力に繋がっていくので、そういうものを、来年は、今ある材料ですよね。週末だったり、放課後だったり、学校帰りでされている活動と、学校の中でされている学習の内容をリンクさせながら、それを子ども達の学びとか、成長に繋がれたり、家庭への支援に繋がれたりするっていう整理をしないとイケなくて。そこを、3月までにして、具体的に4月から動かしていく、それを5年間積み上げていく。いっぱい海田町の中には、や

っていること、材料があると思うんです。それを拾い上げてないし、個別で考えているんです。それをやらないといけないかなと。

○町長（竹野内）

どうリンクさせていくかというのは大事。やったもので、打ち上げ花火で終わっているような感じは思います。先ほど教育長が言われたような、振り返りみたいなものまで含めると、しっかり教育の一環として、できるということもあるんですね。そういうような、システムティックではないんですけども、上手く体系的に整理して、全部こういうプロセスでやっていこうよ、というのが、共有されると、バラバラのものが上手く整合させていける。それが、最終的に、教育上の効果が出てくると、そういうことだったんだ、というふうに繋がってくる。プロセスを明確にして、それに倣って、ソフト的なコンテンツの整理が、まずは、既存のコンテンツで必要なのかもしれないですね。

○教育長（森山）

スポーツ活動なんかも顕著に出ていて、この前、モルック大会をやって、100人近く来ていただいたんです。あれば、地域からの、自治会に対しての練習会を持ってもらったり、スポーツ推進委員が、学校関係の、例えば児童クラブだったり、やりに行ってもらったり、今、11月はニュースポーツで、放課後子供教室で扱ってるんですけども、そういうので、こども達を通して、ニュースポーツを教えると、その関係で親も引っ張られて、社会教育に入ってくる、逆輸入みたいなこともある。こどもがやりたいっていえば、親も連れてく

る。このようなことが、上手くリンクされて循環できると、上手く三者が回るんだと思うんですね。だから、本当に材料はいっぱいあるので、それを一生懸命繋ぐ。

○町長（竹野内）

上手くカテゴライズをして、仕分けをしていく。

○教育長（森山）

きっかけを、どこにしたら一番効果が出て、というのも含めてですが、やってみてよかったね、ということを整理して、繋いでいく作業、今年度一年やった分だけでもしておく、来年度4月のスタートがすごく具体的になってくるので、ぜひやりたいと思っています。

○教育委員（大野）

少し視点が違うところで、家庭教育、家庭学習への支援というところで、役場の一階に、勉強している姿とか、あるいは新聞読んでる地域の方の姿とか、混在しているんですけれども、そういう姿を見たときに、良い環境だなと思ったんです。ああいうスペースがあるっていいよね、という賛成意見を、地域の人からも聞くわけです。そうすると、「私たちも地域で、学習支援ができるような、春休み、夏休み、冬休みにしない？」という声が上がってきたんですね。

「じゃあ、場所を借りようか。」と行って進めたんですけれども、いろんな点になっているようなものを、地域の方が起こしているものを、繋ぐ意味で、ピックアップしてくという、それをされるというのは、大切なことだし、出発も

しやすいんじゃないか、この図も理解してもらいやすいんじゃないか、と思います。

○町長（竹野内）

あるものを活かしながら、体系的に整理して、わかり良く知らしめていく、というのが非常に大事ですね。

○教育委員（竹岡）

繋ぐの話ですが、そうやって繋いでいくというのが、なんとなく、あちこちで点在していたようなことに、関連があって、繋がりがあって、ストーリーがある、みたいなのところが、海田町として示すことができれば、それが町長の言われていた、海田町の風景づくり、思い出づくり、みたいなのところのストーリーが、住んでいる人たちの中に入ってきて、こういう価値のあるものを、実は体験していたんだ、とかこういう価値のあるものが、すぐそばにあったんだ、みたいなのところが、入ってくるのか、と。実際自分が体験しなくても、そういうストーリーが海田町の、どこかしこで行われているっていうのを知ることが、シビックプライドではないですけども、そういうところに繋がっていくのではないのかな、と思いました。

○町長（竹野内）

そうですね。広報にも関わってくるのですが、伝えると伝わるは違うということですね。我々は伝える努力はしているのですが、しっかり、その思いや考え方が伝わっているのか、振り返らないといけない。今、既存のコンテンツが

色々ありますけれども、それが、ストーリー仕立てで、みなさんに、こういう考えでやっているんだというところを、しっかり伝わると、ふと気づかれたときに、こういうところをちゃんとやっているんだと、評価にも繋がっていくのかな、と思います。素材は良いものがあったりするので、あとは、しっかり素材を調理して、みなさんにお出しして、満足してもらおう、そういうものを作っていないといけないですね。

○教育委員（竹岡）

伝わって、腑に落ちて、共感できる。そういうイメージがあると、次の活動に繋がり、海田町のために、人肌脱ぎたいな、遠くに住んでいても、何かやりたいな、とか、そういうところにも繋がるといいですね。

○町長（竹野内）

素晴らしいことですね。共感してもらって、参加になり、参加からプレイヤーとして、そういうシステムみたいな、生態系みたいなものが作られてくると、人口が減ってきても、活力が失われない、地域づくりになってくる。まずは、共感してもらわないといけない。参加もしてもらわないといけないし、参加から、主体的に活動するプレイヤーになってもらう、そういう流れが循環できればいいですね。

○教育委員（竹岡）

そういう風景の中には、一階で勉強しているこども達とか、安心して公園で遊ばせている保護者とか、そういう地に足のついた施策があって、しっかりこ

ここで生活ができるんだ、みたいな部分があってこそ、腑に落ちる風景になるんだろうな、と。単なるイメージではなくて、実体験といいますか、実感のあるもの、っていうのが、これからこの中の細かい部分に繋がっていくんだと思います。

○教育委員（大野）

求めてもいいんだと思います。そういう実体験ができるということを感じてください、というのを求める施策をしても良いのだと思います。やっぱり、町民の生き方、考え方、をこの方向性に持っていく、ということが一つのまとまり、さっきのストーリー、風景に繋がっていくのかなと思うんです。町民一人一人の考え方って、バラバラのように見えるんですけども、ある意味では、一緒の部分ってあるのだと思う。それを探ることが大切なんだと思います。やはり、目に見えるものが、一番に訴えるということがあるのだと思います。役場が変わった、雰囲気が変わったのは、なぜそう思ったのかというと、入った途端に、読書したり、静かに勉強したりしている姿が見えたから、という声を聴いて、一番に環境を整えるっていうこと、それが一番大切なんだなと、見えるということが、話すことよりもインパクトが強い大切なんだなと思いました。だから、ストーリーを作るという部分で、同じ意見にはなりますけれども、地に足の着いた取組というのを考えていく必要があるのかなと思います。

○教育長（森山）

繋がりとストーリーをしっかりと作って、ということですね。コンテンツはい

っぱいあるので、それをどう繋げるか、ということだと思いますね。起点になるところが、学校教育から社会教育に橋渡しして、そこから家庭におりる、どっち回りでも良いし、どこから始まって良いのが、この図の良いところだと思うんです。上手く繋ぎながら、これの背景にある部分ですよ、その部分をしっかり作っていかないといけないですね。次の5年間で、繋げることをしっかりやっていかないといけない。

○町長（竹野内）

やはり環境というのは、大事な要素ですね。ソフトも充実させていかないといけないのですが、ハードもしっかりしたものがなければ、役場が新しくなったのは、良いきっかけで、ハードは良くなって、ソフトとして、1階をフリーで使っていただくような、ソフトとハードどちらもいいものができて、腑に落ちるとか、共感とか繋がっていくのかなと。ハードを全て作り変えるというのは、時間もかかるのですが、今あるものをしっかり使っただきながら、風景として、さきほど竹岡委員が言われたように、この町に来たら、こういう環境があるので大丈夫だなと、思ってもらえるように、しっかり見えるところはPRしないといけないなと思いました。

○教育長（森山）

では、これを持って、次回の全員協議会に諮ることとして、総合計画に合わせて4月からの施行ということで進めていくということによろしいでしょうか。

○事務局 学校教育課長（立田）

はい、そちらで進めてまいります。

○町長（竹野内）

では、今後議会に説明をした上で、来年度から施行し、それと合わせてしっかり取組を求めていく、実感していただけるような、教育大綱の理念が反映されるような施策を考えていきたいと思っておりますので、教育委員の皆様には、引き続き御助言等いただけたら大変心強く思います。

それでは、本日の会議はこれにて終了とさせていただきたいと思っております。引き続き、皆様方の御支援、御協力をいただきまして、よりよい教育に繋げていくことをお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。